

名古屋芸術大学グループ 通信

50
January
2020

【特集】産学官連携
芸術大学だから
できること



Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

「CBC翔け! 二十歳の記憶展」
グランプリ受賞者 3人に訊く

NUA-OG
清水理紗子

NUA-Student

芸術学部 芸術学科 美術領域
アートクリエイターコース
(ガラス) 4年
星野夏実

芸術学部 芸術学科 美術領域
洋画コース 4年
浅野克海

News/Topics

ニュース&トピックス

音楽領域

- 特別客員教授
ケント・モリ氏による
特別講義を開催
- 特別公開講座
岡野弘幹氏による
「ワールドミュージックから見る
平和な世界」を開催

美術領域・デザイン領域

- 【在学生の活躍!】
第6回「東京装画賞」に入賞
- 「自転車盗難」
防止啓発ポスター公募
本学学生が受賞

Master Artist

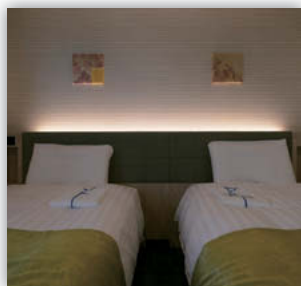
マスター型アーティスト

最後は「音」
音楽領域
サウンドメディア・
コンボジションコース 講師
原田裕貴

Information

インフォメーション

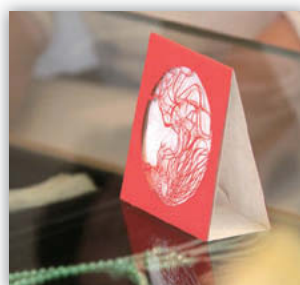
- 2019年度
音楽領域演奏会
スケジュール(予定)
- 2019年度
オープンキャンパス日程
- 名古屋芸大グループ校特集
名古屋芸術大学
保育専門学校



【特集】産学官連携 芸術大学だから できること



本学は、大学・企業・政府や自治体が協力しプロジェクトを行う「産学官連携」に、積極的に取り組んでいます。これまで、多くの企業、自治体等とたくさんのコラボレーションプロジェクトを行ってきました。芸術が社会にもたらす意義や活力は広く認知されるようになり、ますます重要性が高まっています。通常の大学とは異なり、本学は芸術の力を社会に提供していくことが大きな使命であり、また最大の特長だと考えています。こうした活動を通し、地域社会に貢献するとともに、学生が将来に向けてより多くの社会的な経験を積むことにもつなげています。本学の産学官連携プロジェクトについてご紹介致します。



学生と企業と大学、それぞれがメリットを得られるように 広報企画部長兼企画室長 濱田 誠

大学における産学官連携が声高に叫ばれて久しいですが、それは2006年の教育基本法の改正によって大学の機能に新たに加わった「社会貢献」にあります。大学の使命は「教育」「研究」という2つの要素が中心だったわ

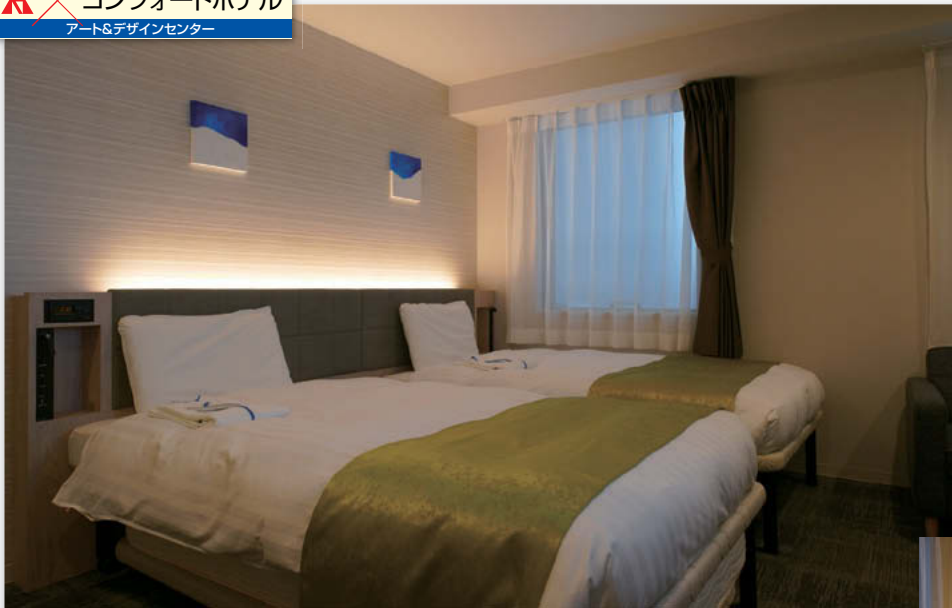
けですが、そこに社会貢献が明記されるようになりました。社会貢献、つまり大学の研究から得られた成果を社会へ還元する方法として、いろいろなやり方があると思います。研究の成果が製品開発に使われることで産業に寄与することもそうですし、生涯学習の場として大学が社会へ開かれるというのもそうです。本学には、ほかの大学と異なり、形として残すことができるという特長があります。完成物がある、これこそが芸術大学ならではのことだと思います。

今現在、たくさんの企業様、自治体様などから、連携プロジェクトの問

合わせやお話をいただいています。学生にとって、ときには高度なことを求められることもあります。こうした経験が個人のスキルアップにつながればと思います。学生の場合、予算や期限よりも、とにかく求められたことに対して100パーセント以上のものを出したいと、そういう純粋な気持ちで取り組みます。企業様もそういうことを理解していただけるのであれば、非常によいものができるのではないかと考えています。学生のスキルの向上、企業様にとってもプロに発注するのはまた異なった仕上がり、そうしたことが積み重なって大学の

バリューにつながっていかばと考えています。

本学では、これまでたくさんの産学官連携プロジェクトが行われてきました。しかし、それらが一元的にまとめられているわけではありませんでした。こうした財産ともいえる実績が生かされておらず、非常に惜しいことをしたと思います。大学が取り組んでいることについて、社会からも知ってもらえるようもっと充実させ、発信していく必要があります。社会から求められている存在であるということ、大学自身でも宣言していきたいと考えています。



アートパネルプロジェクト 参加作家(敬称略)

磯部絢子 山下真実 こざわちはる 横亜利沙
井上七海 西岡毅/西岡里奈 伊藤里佳 泉奈穂
今泉典子 稲葉春乃 道下風沙
山下美桜 山口かおる 藤原葵
伊藤沙織 山守良佳



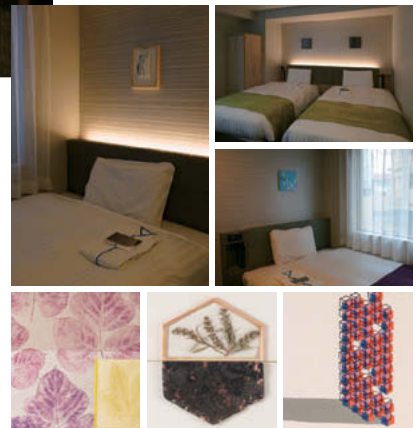
https://meigei-days.jp/business/comfort_hotel/nagoyashinkansenguchi/

アートパネルプロジェクト

2019年11月に新規オープンしたコンフォートホテル名古屋新幹線口。オープンに向け、156室ある客室のすべてにアートパネルを提供するというのが「アートパネルプロジェクト」です。「One Floor One Artist」というテーマで、フロアごとに異なる作家がそれぞれの技法でパネルを制作。アート&デザインセンターが中心となり、本学の学生、卒業生17名の若手作家が制作を担当しました。ホテルの客室すべてが作家それぞれの個性で彩られ、癒やしを提供するとともに、お客様の感性に働きかけ、サービ

スの一翼を担うこととなりました。あわせて、すべてのアートパネルを収録した冊子、持ち帰ることのできる菜も用意され、お客様に作品と作家により関心を持っていただけるよう心配りがされています。

10月26日、オープンに先立ち、コンフォートホテルの会員向けの試泊会が行われました。本学からは、アート&デザインセンター学芸スタッフ 磯部絢子さんが参加、訪れたお客様に向けギャラリートークさながらに、作品について解説しました。作家自身がお客様と一緒に部



屋をまわりながら作品紹介と解説を行うというユニークな形式で、アートを存分に楽しんでいただきました。



チョイスホテルズ企画部
開業準備課 専任係長
今井智香子さん

弊社には、地域とよい縁を結びたいという考えがあります。弊社と愛知、何かしらでつながりたいと考えたとき、地元の作家さんが制作したアートパネルを客室に飾れたら素晴らしいねというアイデアがありました。とても実現できるとは思っていませんでしたが名古屋芸術大学のウェブサイトを見ればもしかすると、と可能性を感じました。

地域とのつながりということに関し弊社と同じような考え方をしていると感銘を受けました。正直、相手にしてもらえないだろうと思いましたが、企業とのコラボレーションの例があったり、地域社会への貢献があったり、思い切ってアタックしてみようと、そんな気になりました。快いお返事をいただいたときは、本当にまさかという思い

でした。

ホテルの特長になることはもちろん、ホテルというパブリックな場所で、少しでも若手作家さんの支援になればと、アートファンとしても思っています。もっとたくさんの作品を館内に飾ることができたのではないかと、力不足を感じています。続けてご協力いただければと思います。



アート&デザインセンター
学芸スタッフ
磯部絢子さん

お話をいただいたのが2月、そこから作家を選び、ホテルの条件とすり合わせをして、パネルを業者さんをお願いし、それを作家に配り始めたのが8月。9月下旬までに制作して回収と、慌ただしいスケジュールでした。作家選びと作品に関しては、ホテルの客室ということもあり、万が一落下しても怪我がないように平面作品の作家とし、死や血を連想するもの、腫の付いている動物や爬虫類は避けるようにしました。また、作品に注釈が付けられない

ため、お客様に作品を理解していただくための冊子を提案させていただきました。冊子は、作品を回収した9月の終わりから、1ヶ月で制作しました。お客様には男性が多いと伺い、かわいくするより、品のあるスタイリッシュな感じに仕上げようと思った。

通常の展覧会ならば、1週間や10日ほどの展示で終わります。しかし、今回は恒久的に作品が飾られ、お客様が入り代わり立ち代わり作品を見ることとなります。作家にとっても、とても

よい環境ではないかと思えます。作品が売られていくところは知っていますが、その先でどう飾られているか、作家は見たことがありません。今回は、部屋に飾られる自分の作品を見ることができ、とても刺激を受けましたし、よい経験になりました。ちょっと緊張感があります(笑)。ホテルにとってはこういう作品が入っていますよ、作家にとってはホテルに納品した作品が入ってますよといった相乗効果が生まれればと思います。



<https://youtu.be/LwNmmz8qNUo>

クリスマスデコレーション

昨年、名古屋市港区にオープンした大型ショッピングセンター、ららぽーと名古屋みなとアクルス。そこに outlet する「蔦屋書店」のクリスマスデコレーションを、アートクリエイターコースの有志の学生が手がけました。蔦屋書店は、DVD レンタルのTSUTAYAを運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブの書店で、単なる本屋さんではなく、カフェが併設され、本以外

にもさまざまな展示や雑貨の販売などもあり、家族と一緒に楽しめるモトとコト、時間を提供するというコンセプトのライフスタイル提案型の書店です。このプロジェクトでは、蔦屋書店からの依頼でクリスマスの装飾を制作しました。お店のコンセプトに沿って装飾を考えて提案し、サンタクロースがカフェでくつろいでいるところに、本棚からたくさんの動物が顔を出し、

店内のあちこちに小さな雪だるまが隠れていたり、動物の足跡があつたりと、楽しいものになりました。お店からも、「写真に撮っていくお客様がたくさんいらっしゃいます。特にサンタクロースと一緒にツーショットを撮るなど楽しんでもらっています。おそろおそろサンタクロースの顔をのぞき込むお子さんの姿は毎日のように見られます」とうれしい声が聞かれました。

担当教員

アートクリエイターコース
松岡 徹准教授

9月に蔦屋書店からお話をいただきプロジェクトが始まりました。夏休み中でしたが、学校へ来ている学生に声をかけ、その学生らと一緒に現地を確かめてプランを出しました。前期を終えたばかりの1年生にはすこし荷が重いと考え、今回は2年生以上に限定しました。15名ほどの学生が参加してくれました。

店舗では、あまり大きなものを飾るスペースがなく、つり下げも難しいと制約がいくつかありました。学生たちは、条件の中、窓や本棚、店内の照明や床など、さまざまなものへ装飾を施すアイデアを数多く考えました。表現としても、最初あまりにクリスマスっぽいものよりも動物たちが本棚から飛び出しているというアイデアがあり、それを軸にサンタクロースがカフェでくつろいでいたら面白い、とたくさんアイデアが出されました。サンタクロースが道に迷ってカフェで地図を広げているといったことも考えましたが、最終的には道に迷っているのかもしれないし、仕事をサボっているのかもしれないと、見る人に想像させる余地を残すようなものになりました。

蔦屋書店では、学生たちが出したアイデアをとても喜んでくださり、通常のディスプレイ

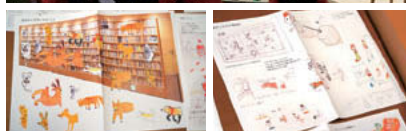
の会社ではこのようなアイデアはなかなか出ないと褒めの言葉をいただきました。

12月初旬には完成させ搬入する必要があり、制作には苦労しました。動物の絵は、手描きではなく版画を作り、それをスキャンして拡大するなどして制作しました。また、プリントやカッティングシートは、アートクリエイターコースで制作したデータをもとに、デザイン領域で手直して出力してもらいました。

造形に限らないと思いますが、思い入れもなく気持ちを入れずに制作すると、形の端々にそうしたものが表れてしまいます。そうならないよう、学生にはすこし緊張感を持ってもらうよう気を使いました。制作経験の少ない学

生にとっては大変だったと思いますが、院生も加わり、学年を超えての制作はすごく刺激になったと思いますし、よい経験になったのではないかと思います。

こうした外部とのプロジェクトは、制約がありますし、相手もあります。大学の中だけで制作するのは異なり、自分が納得するというだけでは成立しません。自分を表現するというに加え、社会で必要とされるクリエイターになっていって欲しい、こうした考えを具体的に実際の現場を通して伝えることができます。とても貴重な機会であり、学生たちにも理解しやすいのではないかと考えています。

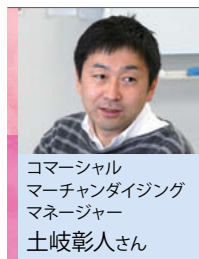




企画立案

名古屋市港区のテーマパーク LEGOLAND Japan株式会社とのプロジェクトも、現在進行中です。デザイン領域1年生、ライフスタイルデザイン、ヴィジュアルデザイン、スペースデザイン各コース2・3年生の有志の学生が、実際にレゴランド®へ赴き課題を抽出して、新しい商品やサービスを企画、提案しています。

12月には2回目のプレゼンテーションが行われ、レゴランド®から、土岐彰人様(コマーシャルマーチャンダイジングマネージャー)、村松賢様(テクニカルサービスモデルショップスタッフ)の2名に大学へお越しいただき、学生たちはアイデアをプレゼンテーションしました。レゴ®をモチーフにしたグッズの企画や、園内でできる体験型のアトラクション、レゴ®を使ったこれまでにないタイプのワークショップなど、さまざまなアイデアが披露されました。ライフスタイルデザインコース 水内智英准教授からは「学生たちの荒削りのアイデアに対しても非常に丁寧に進めていただいています。実現に向け、たくさんの制約があり、学生たちはその大変さを感じているのではないのでしょうか。大学の課題とは大きく異なり、そのこと自体にも意味があると感じています」とコメントをいただきました。



さまざまなアイデアをいただきありがとうございます。実現不可能なものもありますが、それも含めて聞かせていただくことに意義を感じています。ほかの大学でも連携事業を行いました。名古屋芸大のアイデアは洗練されているように感じています。来年の夏を目処に、3つは実現したいと考えています。



ワタシたちの本棚

「ワタシたちの本棚」とは、文芸・ライティングコースのひとりひとりが予算1万円で新刊本と古書を購入し、それぞれの本棚をプロデュースするという企画です。書店での選書や大学での本棚作りをとおして、他者の世界を知り、自分の視野を広げることを目的としています。学生が選んだ「コトシの一冊」に手書きのPOPを付けて、ジュンク堂書店名古屋栄店の話題書コーナーに陳列し、芸大生がおすすめる本として販売していただきました。

担当教員

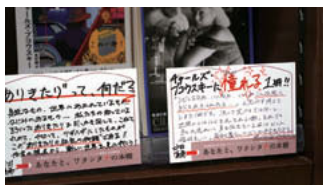
文芸・ライティングコース
西村和泉准教授

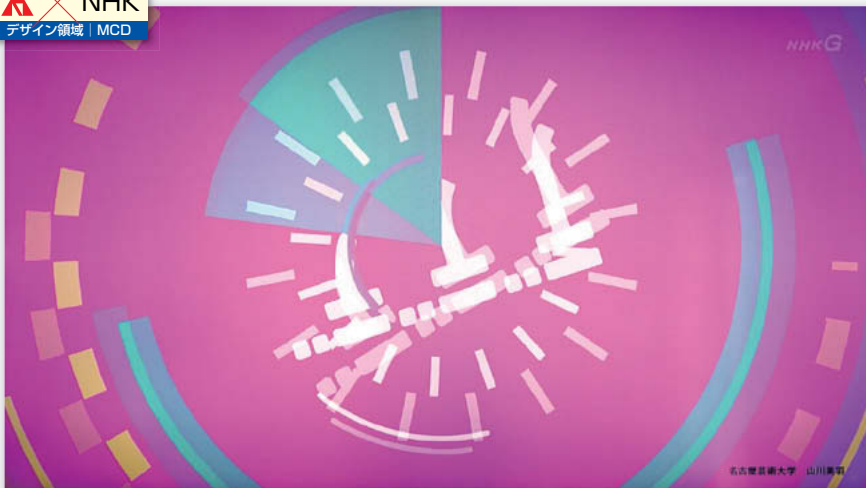
文芸・ライティングコースでは、日々学生が文章力を磨き、言葉を用いた創作に取り組んでいます。書くための基本として様々な本を読むことにも重きをおいています。この本棚企画は、学生自身が選書や読書に意識的に取り組み、そこから吸収したことを創作の形でアウトプットするためのよい機会であると考えています。今回、ジュンク堂書店のご協力により、夏休みの1ヶ月間、本棚を設置していただきました。コースで制作した冊子や学生たちが書いたPOPを読んでおすすめ本を購入した方も多く、学内での取り組みが書店での実売に結びつき、とても励みになりました。

選択した本はWebサイトでも公開しています。ぜひご覧ください。



<https://www.lwdnua.com/ワタシたちの本棚/>





「デデデザインて何?!」 クラッチ映像制作

中部7県のNHK総合、BSプレミアムでオンエアされる5分間番組「デデデザインて何?!」で使用されるクラッチを、メディアコミュニケーションデザインコース 飯島健輔さん、高橋圭祐さん、藤井一輝さん、山川美羽さんの4人が制作しました。クラッチとは、シーンの切り替わりに使われる短い映像で、今回は2秒。短いながらも、本編の内容とテイストに合ったものが必

要です。この番組は、デザインについてわかりやすく伝えるもので、本学学生が参加したのは「岐阜県各務原市の巻」「リニモの巻」「いろいろの巻」。番組進行にも特徴があり、ナレーションではなく全編ラップで進められ、本学メディアコミュニケーションデザインコース卒業生のisorokuさんが担当しました。本編は放送以外にもWebサイトで公開中。ぜひご覧ください。

<https://www4.nhk.or.jp/P5967/>

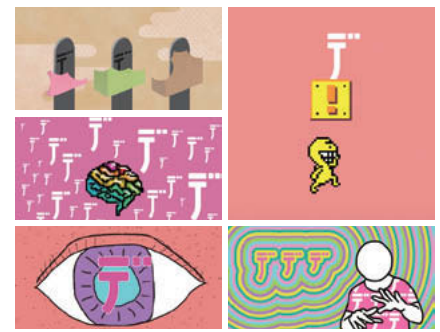


担当教員

メディアコミュニケーション
デザインコース
檀田珠実教授

2秒ほどの短い映像
でしたが、とても大変
だったと思います。メ

ディアコミュニケーションデザインコースでは3年生になってから本格的なアプリケーションを使った映像制作を始めますが、経験の少ないなか、よく頑張ってくれたと思います。本放送で使用されるものであり、要求されるクオリティが厳しく、それをクリアするために何度も作り直しや修正の要望に答えていました。よくできていた作品でも、本編のイメージとの整合性が考慮され採用されなかったものもありました。クライアントが要求するものに答える、しかも、NHKの放送に応える厳しさを体験できたことは、とても勉強になったと思います。



初期映像案

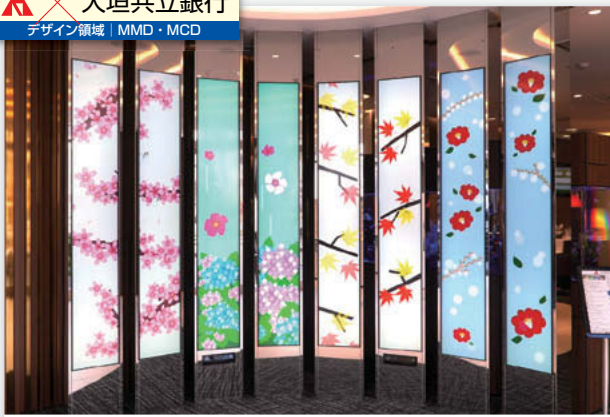


第34回特別企画展 「深海の玉手箱」トリックアート制作

2019年7月12日～9月1日まで豊橋市自然史博物館で開催された特別企画展「深海の玉手箱」に合わせ、7月2日～8月31日に博物館および豊橋駅東西自由連絡通路に飛び出して見えるトリックアートを設置しました。深海の生物と一緒に写真を撮ることができるスペースとして、SNSでも人気となりました。

制作は、メディアコミュニケーションデザインコースの4年生が担当。特定の場所から見ると飛び出して見えるトリックアートを要望され、展示場所と同じ大きさのスペースを用意し、一旦、手描きで絵を完成させ、それを撮影しCGへと落とし込むという方法で制作しました。





マルチディスプレイ用の映像制作

大垣共立銀行納屋橋新店舗(テラッセ納屋橋支店)に設置されているマルチディスプレイ用の映像を、メディアデザイン、メディアコミュニケーションデザインコースの3年生全員が参加して制作しました。このプロジェクトは、テラッセ納谷橋がオープンした2017年から始まったもので、今年で3回目。各コースの学生が参加し、放映する作品を先方へ選んでいただくコンペ形式で行われています。

8本に分割された変形ディスプレイは金属でできていて、店舗にも高級感

があります。そこに表示する映像ということで、現地を調査してコンテンツを作ることになります。デザインの仕事は、先方の要望や希望に沿うことが重要。それを学生が実感することのできるとても良い機会となっています。



北名古屋市PR動画制作

北名古屋市のPR動画を、本学学生有志が制作しています。すでに撮影を終え仮編集のものを監修の映画監督堤幸彦氏に見ていただき、北名古屋市市長をはじめ、関係各所にチェックしていただいているところです。悩みを

持つ一人の学生が北名古屋市を訪れ、北名古屋の人々とふれあうことで創作意欲を取り戻すといったストーリーに、北名古屋市のさまざまな場所を織り込んでいます。

担当教員

メディアデザインコース
竹内創准教授

5月末に堤幸彦監督に

特別講座をやっていたいただき、7月からメディアデザインコース、ライフスタイルデザインコース、音楽領域の学生、声優アクティングコースの学生で

撮影に入りました。夏休みの間、学生たちが文字通り足で回って、北名古屋市の魅力を映像にしました。100名以上、北名古屋の人たちに出演していただいています。堤監督にも、お褒めの言葉をいただきました。



クリスタル広場ビジョン映像制作

名古屋市栄地下街のサカエチカが開業50周年を迎えリニューアルし、クリスタル広場にデジタルサイネージが設置されました。それに合わせ、東海地区の7つの大学がそれぞれ映像を制作する「LED.実行委員会(Leading Educational group for Display research.)」というプロジェクトが開催されました。本学からは、メディアデザインコース4年の柄澤陸人さん、所香菜子さん、諸星志づくさん、山田幸さん、3年の安保さやかさん、石井丈さん、細野真実さんが参加しました。

4本の柱を覆うようにLEDが設置され、角から見た場合や複数の柱が視野に入った場合などを想定して映像が制作されました。たくさんの人が通行し、待ち合わせに使う場所であり、自分たちの制作した映像を多くの人に見てもらふ貴重な経験となりました。

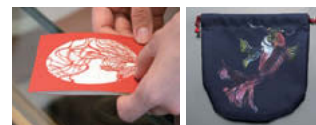




デザインプロデュース

地元、北名古屋で数珠を専門に製造販売するの翔龍念珠堂とコラボレーションし、お店のロゴマーク、包装紙、名刺、商品説明書、数珠を入れる布ケースといった商品、さらにお店のウェブサイト提案、採用され使っていただいています。このプロジェクトは、デザイン領域の学生が履修することのできるデザイン

プロデュースという講義の一環で、さまざまなコースの学生が履修し、それぞれが得意とする分野で力を発揮し、ご協力いただいた翔龍念珠堂にも大いに評価していただきました。



担当教員

テキストデザインコース
扇 千花教授

メタル&ジュエリーデザインコース
米山和子准教授

北名古屋市のクラフト特産品を企画して制作するという考え、デザインプロデュースの講座を組みました。どんなことが提案できるか、学生たちにアイデアを募集したところ、翔龍念珠堂のショップがビジュアルデザインの面で改良の余地があることに気が付きました。商品もディスプレイもお店のインテリアも素晴

らしいのですが、雰囲気合わない名刺だったり、商品説明書だったりしたわけです。学生たちもそうしたことに気が付き、このような提案をすることになりました。

今回、領域、学年を超えて協働できたことが非常によかったです。100以上のアイデアがあったのですが、そこを上手く取りまとめてくれたのはライフデザインコースの学生でしたし、先方に提案する場合のプレゼンはビジ

アルデザインコースの学生がとても上手くやってくれました。ものづくりは、メタルとテキストの工房で行いました。商品化できなかったものもありますが、それぞれがとてもよい動きをしてくれました。いろいろなコースの学生が集まると、自分の想定以外のところに話が展開していきます。そのことが教員2人にとっても大きな驚きでした。



ビジュアルデザインコース 4年 渡邊結機さん
イラストレーションコース 3年 川瀬万未さん
イラストレーションコース 3年 新美果歩さん
メタル&ジュエリーデザインコース 4年 神田真由さん

渡辺 ロゴマークとそれを使った包装紙と名刺を作りました。どのようなものが好まれるのかわからなくて、女性的、男性的、中性的なもの3種類を提案しました。迷われていたようですが、どういったお店にしたいかというアイデンティティーについてより深く考えていただいたようで、そういう意味でもよかったです。

新美 イラストレーションコースは、普段、自分の手でものをすることをしないので、そういうコースの人と交流が持てたことがよかったです。実際に形になるとすごくうれしくて、専門の人やお店の方と話すこと、反応があることなど、すごく新鮮な経験をしました。

川瀬 今回、説明書のサンプルを何パターン

か作りしました。イラストレーションコースの授業の中では、作ったものに対して相手の反応を見て試行錯誤していくという工程がなかったので、そのことがすごく勉強になりました。先方が求めるクオリティがどんなものなのか話し合うことがとても貴重な体験でした。

神田 もともと私は切り絵が好きで、授業で切り絵を型紙に使ったステンシルという技法を教えていただき、数珠袋を提案しました。お店で販売していただくことになり、切り絵の作品も置いていただけることになりました。学外の方に知っていただけることが本当にありがたいなと思いました。これを機に、切り絵作家になると決心しました。

2018年度 受託事業、受託研究一覧

所属領域	担当者	受託先組織	受託先所在地	受託内容	受託者
美術	萩原清作	その他	北名古屋市	地域における芸術文化交流	ハルクリック
デザイン	和田義行	企業	愛知県名古屋市	介護医療コンシェルジュロボットのデザイン開発プロジェクト	新東工業株式会社
デザイン	片岡祐司	企業	愛知県名古屋市	新製品デザイン開発プロジェクト	ナガサキ工業株式会社
音楽	広報企画部	自治体	岐阜県高山市	平成30年度 飛騨春慶楽器育成・活用業務委託	高山市役所 生涯学習課
音楽	伊藤孝子	その他	北名古屋市	音楽療法の実践	音楽療法グループ マイエ親の会
デザイン	樺田珠実	自治体	北名古屋市	北名古屋市議会だより表紙イラスト作成	北名古屋市
デザイン	樺田珠実	企業	岐阜県大垣市	OKBテラッセ納屋橋支店内におけるデジタルサインネーミングコンテンツ制作	大垣共立銀行
音楽	広報企画部	自治体	北名古屋市	北名古屋市芸術鑑賞業務	北名古屋市
美術	松岡 徹	自治体	北名古屋市	北名古屋市との連携事業 南さつま市「2018吹上 砂の祭典」作品制作	北名古屋市
芸術教養	茶谷 薫	その他	愛知県西尾市	御忌会 学びの場(特)「サイエンス・カフェ&リベラルアーツ・サロン」	浄土宗西山深草派 虎洞山龍臥院 桂岩寺
音楽	長江和哉	その他	愛知県名古屋市	マスターズ・プラス・ナゴヤ 第3回定期演奏会 ライブレコーディング	マスターズ・プラス・ ナゴヤ
音楽	梶田美香	その他	愛知県名古屋市	アッセンブリッジ・ナゴヤ 演奏会の企画運営、報告書制作	アッセンブリッジ・ナゴヤ 実行委員会

所属領域	担当者	受託先組織	受託先所在地	受託内容	受託者
デザイン	片岡祐司	企業	愛知県名古屋市	中部文具工業協同組合 シヤチハタ受託研究「文具のデザイン開発」	シヤチハタ株式会社
音楽	森泉博行	その他	岐阜県高山市	飛騨・世界生活文化センターオリジナルミュージカル・プレイベント「サバステテコンサート」	飛騨・世界生活文化センター 管理指定者 飛騨コンソシアム
デザイン	駒井貞治	企業	愛知県名古屋市	レオパレス21 受託研究『モデルルーム制作』	レオパレス21
音楽	森泉博行	その他	岐阜県高山市	第11回 飛騨センターオリジナルミュージカル公演	飛騨・世界生活文化センター 活用推進協議会
音楽	広報企画部	企業	愛知県小牧市	ピアノ&エレクトーンコンサートのゲスト出演 依頼演奏[弦楽四重奏]	卒業生 松元様
美術	広報企画部	自治体	岐阜県高山市	平成30年度高山市子ども夢創造事業「わたしも一日芸大生」	岐阜県高山市
音楽	広報企画部	企業	愛知県半田市	ミツカンミュージアム 8/17~18 半田運河キャナルナイト演奏	株式会社Mizkan Partners ミツカンミュージアム
音楽	芸術	その他	愛知県小牧市	委託業務「こまぶんフェスタ」内カフェ運営	一般財団法人 こまき市民文化財団
音楽	芸術	その他	愛知県小牧市	委託業務「こまぶんフェスタ」企画運営	一般財団法人 こまき市民文化財団
デザイン	樺田珠実	自治体	愛知県豊橋市	豊橋市自然史博物館 委託業務「特別企画展示室内壁画デザイン作成業務」	豊橋市
音楽	長江和哉	その他	愛知県名古屋市	JAZZアンサンブルのレコーディング	個人
音楽	広報企画部	その他	愛知県一宮市	一宮市浅井公民館 音楽療法講座	一宮市浅井公民館

有松絞り
デザイン領域 | テキスタイルデザインコース



手ぬぐいブランド「お茶の子」

手ぬぐいブランド「ケセラセラ」

有松絞り手ぬぐいブランドプロジェクト

テキスタイルデザインコースでは、2009年から有松絞りの産地である名古屋市区と連携し、学生たちがデザイン制作した手ぬぐいを6月に行われる「有松絞りまつり」で販売するというプロジェクトを続けています。

今年は、昨年に引き続き、有松とドイツ デュッセルドルフを拠点に世界展開するsuzusanクリエイティブ・ディレクターの村瀬弘行 特別客員教授をお招きし、商品販売としてのブランド設定から、手ぬぐい制作、販売のための店舗づくりなど、多岐にわたって指導していただいています。学生らは2

つのチームに分かれ、ブランドを考え販売戦略を立て、それに沿う形で商品展開を考えて制作し、実際に販売を行います。例年、用意した商品が完売するほど人気となっています。



※2019年6月の「有松絞りまつり」より

名古屋帽子協同組合
デザイン領域 | テキスタイルデザインコース



オリジナルデザインの帽子制作

テキスタイルデザインコースでは、名古屋帽子協同組合とも連携し、学生がデザインした帽子を制作するというコラボレーション事業を続けています。学生が考えたデザインとテキスタイルをもとに、帽子組合に加盟する企業が制作します。例年10月に開催される「尾張名古屋の職人展」に出展し、オアシス21に設けられたステージで制作した帽子が披露されます。

東海地方は歴史的に帽子づくりが盛んな地域です。このプロジェクトは、地場産業と学生のアイデアを結びつけ、伝統の継承と発展につなげること

を目的に10年以上前から続けられているものです。学生らは、自らがデザインした帽子を身につけステージに上がり、ファッションショーを行います。この取り組みの中から実際に商品化された作品がいくつもあり、名古屋帽子協同組合のブースではそれらを購入することもできるようになっています。



所属領域	担当者	受託先組織	受託先所在地	受託内容	受託者
音楽	広報企画部	その他	愛知県一宮市	「ワンコインクラシック オン・ステージ」	一宮市市民会館等指定管理者 共立・伊藤忠UC共同事業体
音楽	広報企画部	教育機関	愛知県幸田町	坂崎小学校芸術鑑賞会	坂崎小学校
音楽	長江和哉	その他	愛知県名古屋	JAZZアンサンブルのレコーディング	小林美千代様
デザイン	片岡祐司	企業	愛知県清須市	豊田合成(株)受託研究『未来インテリアデザイン開発研究』	豊田合成株式会社
音楽	広報企画部	教育機関	愛知県名古屋	委託業務「東新商店街イルミネーション点灯式演奏」	名古屋音楽学校
音楽	森泉博行	その他	岐阜県高山市	飛騨・童話会議プレビューコンサート in名古屋芸術大学	飛騨・世界生活文化センター指定管理者 飛騨コンソーシアム
音楽	広報企画部	企業	愛知県半田市	ミツカンミュージアム 委託業務「2018年ミツカンミュージアムクリスマス企画演奏」	株式会社Mizkan Partners ミツカンミュージアム
音楽	長江和哉	教育機関	愛知県各務原市	受託事業 各務原市立桜丘学校校歌レコーディングの委託金	各務原市立桜丘中学校 校長 加藤英優様
音楽	梶田美香 梶田珠実	自治体	愛知県名古屋	第6回てんぱく音楽祭 広報プロデュース	名古屋市天白区
美術	広報企画部	自治体	北名古屋	北名古屋市 田んぼアート実行委員会への参加、デザイン原画制作	北名古屋市田んぼアート実行委員会
デザイン	梶田珠実	自治体	愛知県豊橋市	豊橋市自然史博物館『特別企画展PR用模型製作・設置業務』	豊橋市
デザイン	駒井貞治	企業	愛知県犬山市	受託研究「バーティション家具のデザイン及び制作」	株式会社バームホルツ

所属領域	担当者	受託先組織	受託先所在地	受託内容	受託者
音楽	広報企画部	その他	岐阜県高山市	委託業務『「ひだのわらべうたCD」のレコーディング』	NPO法人飛騨高山わらべうたの会
音楽	広報企画部	その他	岐阜県高山市	連携事業 高山市 子ども夢創造事業「森になろう!」	高山市
音楽	長江和哉	その他	愛知県名古屋	スタジオレコーディング『Jazz Big Bandのレコーディング』	CUGジャズオーケストラ
音楽	広報企画部	教育機関	愛知県豊川市	豊川高校吹奏楽部第14回定期演奏会 照明オペレーター及び照明スタッフ派遣	豊川高等学校
美術	広報企画部	企業	愛知県名古屋	委託業務「トヨタカラーラッピングの店舗におけるディスプレイ」	株式会社オダタイヤ
デザイン	水内智英	企業	愛知県犬山市	受託研究「犬山市シルバー人材センター地域農業活性化事業」広報支援	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
音楽	広報企画部	教育機関	愛知県名古屋	名古屋大谷高等学校「卒業定期演奏会」録音・編集業務	名古屋大谷高等学校
音楽	広報企画部	自治体	愛知県長久手市	平成30年度自主事業『おんぱく2018』事業評価報告書作成	長久手市
音楽	広報企画部	企業	愛知県名古屋	第一楽器 委託業務「へべとカナルの音楽会」運営	株式会社 第一楽器



「CBC翔け! 二十歳の記憶展」 グランプリ受賞者 3人に訊く



静寂

2017年 第12回グランプリ



Vol.100
NUA-OG
清水理紗子
(しみず りさこ)
アートクリエイターコース(陶芸)卒業

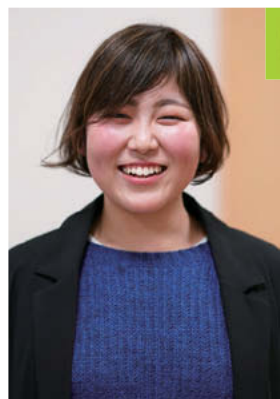
-高校時代はなかなか陶芸に触れる機会も少ないよね。陶芸を始めたのはいつ頃から?
高校時代は油絵をやっていて、ほとんど立体はやったことがありませんでした。油絵を描いていて、全然できないと気が付いて、それでも美術をやりたいくて日本画もやってみました。でも、日本画も合わないなど。アートクリエイターコースに入り、そこでいろいろなこ

とをやってみて陶芸にたどり着きました。きっかけは吉川正道先生作品を見て、カッコいいなあと思ってですね。じつは、アートクリエイターコースを受験したとき、自分の作品を見てもらったんですが、そのときは伊勢型紙をもっていきました。母親の実家が伊勢型紙と関係があり、高校時代、油絵と並行してやっていたんです。陶芸も伊勢型紙もちまちました作業なん

ですが、そういうのが好きなんです(笑)。

-作品は、卒業制作展でもブライトン大学賞を受賞したよね。制作に苦労することもある?

そんなに苦労することはないですね。私の作品は、男性的だっていわれるんですけど、自分でカッコいいって思い込んで作ってるんです。作り始めのときは、まだ作品が見えてこないのてつらいんですが、20cmく



Vol.101
NUA-Student
星野夏実
(ほしの なつみ)
芸術学部 芸術学科 美術領域
アートクリエイターコース(ガラス) 4年

2019年 第14回グランプリ



-ガラスは、本当に体験することって少ないじゃない。どういうきっかけで?

中学生の頃からガラスに興味があったんです。イギリスへ行ったことがあり、教会のステンドグラスを見て、それからガラスに興味をもちました。高校のときにインターンシップでステンドグラス工房へ行ったりもしました。大学はガラス工房があるところということで、

本学が愛知教育大学へ行きたいと考えました。たまたま、高校の非常勤にアートクリエイターコース彫刻専攻の先生がいらっしゃっていて、オープンキャンパスで工房を見学させていただいて、それで決めました。

-ふくろうの作品は、これ、どうなってるの?

12枚のレイヤーに1枚ずつ絵を描いた立体的な作品になっています。ふくろうは眼球を動かさない生き物

なんですけど、ふくろうと対面するとずっと目が合っているような感覚になりますよね。あれは錯覚らしくて、ふくろうはもっと遠くを見ているそうなんですけど、あの感覚になるように。立体の一番奥にふくろうがいて、どこから見ても目が合っているとるように、見られているような感覚になればいいなと考えて作りました。

「CBC 翔け! 二十歳の記憶展」は、CBC (中部日本放送株式会社) が開催する展覧会。次代の芸術を担う学生を発掘・応援するためのもので、本学、愛知県立芸術大学、名古屋造形大学の学生、大学院生から選抜された作品30点が審査、表彰され、CBC スタジオギャラリーで展示されます。2005年から始まった展覧会ですが、2017、2018、2019とこの3年、本学の学生が続けてグランプリを受賞しています。今回は、NUA-ism スペシャルとして、受賞者3名にお集まりいただき、お話を伺いました。

らい立ち上げてくると、そこからはなんてかっていいんだらうと(笑)。

- 立体を作る前に、いろんな方向から絵を描いてイメージを固めてから作るんじゃないの!?

描きますけど、私は正面から描くだけで、そこからもう作っていきます。裏は、自分の想像なので作りながらですね。土は収縮して形が変わっていきってしまうところもあるので、土のわがままを聞きながらですね。ペットを飼ってるような感じなんです。ヘンリー・ムーアだとか海外の作品を見てかっていいなあ、そうした作品に近づきたいと思いシンプルな形の作品を作っていたんですが、何となく自分の限界が見え、それならば腹が立つほど減茶苦茶な作品を作ってみよう、今の作品になっていきました。

- 卒業して2年目。今後はどうしていくつもり?

今年の4月まで大学で研究生をやらせていただきました。働きながら作品作りをやっていましたが、制作と展示に追われ、夏からは制作を中心に活動してきました。来年4月から、新しい会社に勤めることが決まったのですが、ありがたいことに制作しながら働ける環境を手に入れることができそうです。自動車関係で、全然陶芸とは関係のない会社なんですけど、テスト窯を貸していただけるし、金属でも何か作ってみない? といわれています。やったことないですが(笑)。

- 12枚もあるんだ! ガラスの厚みはどれくらいなの?

1枚3mmです。手前の雲は磨りガラスっぽく、奥はリユーターを使って手で彫りました。作品に緊張感をもたせたくて薄いガラスにしました。12枚買って、1枚も壊さずに作ったんですよ!

- レイヤーになってる構造や立体だけど平面的だったり、版画っぽい感じも面白いわね。

版画もすごく好きなんです。ガラスが日常の中に使われていても、窓ガラスなどその存在は希薄というかないものとして扱われます。それに自分が触れ、削るという作業によって浮かび上がってくる。自分の手によって、ガラスは存在が明確になります。ガラスの存在を示すことが、自分の存在を示すことにもなるんじゃないかと思っています。

- 星野さんは4年生。今後はどうしていくつもり?

大学院への進学を考えています。就職が決まっていたんですけど、進学しようとお断りました。これまで自分の作品に自信がなかったのですが、大きな賞をいただいて評価していただき、制作したい、頑張りたいという気持ちになりました。賞をいただいてびっくりした一方で、でも、今が自分の意見をいうときだと思ったんです。本当によかったなと思っています。



OK、私は人類を滅亡させます。



Vol.102
NUA-Student

浅野克海

(あさの かつみ)

芸術学部
芸術学科
美術領域
洋画コース 4年



<https://katsu3katsu.jimdofree.com/>

2018年
第13回グランプリ

- 絵の人は早熟で、早くから洋画なら洋画、日本画なら日本画と決めてるイメージがあるけど…

そうですね。たまに別のコースから移ってくる人もいますけど、ずっとやってきた人が多いですね。僕も高校から美術科でした。もともとマンガを描きたくて美術を始めたんですけど、いろいろやっているうちに油絵を描くようになっていきました。感覚的に一番合っているように感じています。油絵の発色が好きで、重ねて深みを出していくところも好きなのかもしれません。

- 「OK、私は人類を滅亡させます。」って作品名が面白い。このタイトルの意味は?

去年からずっと一貫してやっているAIをテーマにした作品で、この言葉は、ソフィアというAIロボットが発言した言葉なんです。その言葉をもとに作品を作ったのでタイトルにしました。

- 一点描画みたいにも見える、細かい作業だね。

エネルギーみたいなものを線で表現しています。人間もほかの物質も突き詰めればエネルギーの集合体で、それを表現するためこうした技法に

なっています。線の一つ一つがエネルギーを表すイメージです。AIが人類を滅亡させるとか、SFだったり、アニメだったり、実存しない世界のことでした。ですが、今では現実として存在する、エネルギーのある世界で起こっています。人間とAIの境界といいますが、AIが人間に近づいていったら人間のアイデンティティーはどうなっていくか、みたいなことを意識して作っています。

- 今の社会につながっていて、現代アートの考え方なんだね。シリーズで見るともって面白そう!

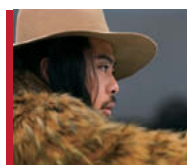
そこは意識していますね。現代アートで生き残っていくなら、時代と結びついた部分が絶対に必要だなと思っていて、そこからこのテーマを選んだようなところがあります。絵画を生かして、どういうテーマを盛り込むか考えた末に、今のテーマになっています。

- 浅野さんは4年生。今後はどうしていくつもり?

東京藝術大学の大学院を受ける方向で今やっていて、とりあえず、それ次第ですね。制作を続けていきたいと考えています。



こちらもぜひご覧ください
 【Kento Mori Dream Salon】
 対談：KENTO×森泉博行
<https://youtu.be/1ZfBFmoSeU>



音楽領域

特別客員教授 ケント・モリ氏による 特別講義を開催

2019年12月26日、ダンスパフォーマンスコース特別客員教授 ケント・モリ氏が来校され、特別講義が行われました。前回、5月に行われた特別講義から半年を経た学生たちの変化を確認する機会となりました。

講義は、7月に逝去された森泉博行教授への哀悼の言葉から始まりました。東キャンパス5号館、ミュージカルスタジオに集まったダンスパフォーマンスコース、ミュージカルコースの学生らは、それぞれグループで年度末の修了公演に向けて練習してきたダンスを披露しました。学生らは少し緊張しつつも、練習してきた成果を出し切ろうと励みました。

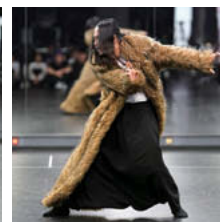
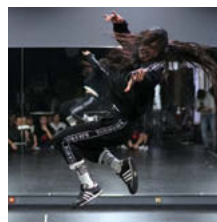
黙って見守ったケント氏からは、趣味でダンスをやっている人への評価が欲しいか、プロのダンサーに対する本当の評価が聞きたいかどちらかを選び、との言葉。学生らが本当の評価が聞きたいと返答すると、どちらのグループも採点すると100点満点中2点。踊ったということに2点は与えるが、それ以外に何も感じない。こうして大学でダンスを学んで、卒業したらすぐダンサーとしてやっていけるかといったらNO！誰の心にも響かない。そんなダンサーを使いたいと思う人は一人もいない、と厳しい評価が下されました。

あまりの酷評にうつむく学生たち。ケント氏は、フリを覚え、みんなと合わせて技術を磨くことはもちろん大事なことだが、それよりも見る人の心をつかみ、感じてもらうことのほうが

ずっと大切で、常にそのことを意識していることがエンターテインメントの世界に身を置く者には必要と話します。一人一人が自分の個性を発揮し、見る人の心に訴えるダンスでなければ響かない。そして、今この瞬間から、そうしたダンスができるように努力していけばいいと激励し、ダンスレッスンとなりました。

レッスンでは、ケント氏のオリジナルの楽曲にフリをつけ、学生らと一緒に踊ります。時間をかけてゆっくりと身体を動かしていき、うつむいていた学生らを解きほぐしていきます。ときにはユーモアを交え学生らと身体を動かすうちに、いつの間にかダンスも潑刺としたものへと変化していきました。間違えないように、失敗しないようにとごちこちなくなっていた最初の動きとは打って変わって、身体を動かすことを楽しむ様子が見られ、踊ることの喜びがスタジオ中に溢れました。

レッスンの後は、1号館アセンブリホールでの講義となりました。学生からケント氏に質問し、そのことについてディスカッションするという形式で行われました。学生からは、「自分に自信が持てない。どうしたら自信が持てるか」「どうすれば自分のダンスを見つけられるか、ケントさんは今後どんな活動していくのか」などなど、たくさんの質問が上がりました。自身の経験を交え一つ一つ丁寧に答えながら、ダンスにも武道の心・技・体と同じような考えがあり、身体を作ることや技術を磨くことは大事なことで



ある。でも、それらは心があって初めて役に立つことであり、心を磨くことが一番難しく、一番大切であるといえます。心がしっかりしていれば、技術を身につけることは後回しでも大丈夫。日常が本番であり、常にそうした心構えでダンスに向かってほしい

と話しました。学生たちはケント氏の熱い言葉に鼓舞されたようで、ダンスへの取り組み方が変わっていくことが期待されます。盛り上がりを見せたディスカッションが終わってしまうことを惜しみながら講義は終了となりました。

音楽領域

特別公開講座 岡野弘幹氏による 「ワールドミュージックから見る 平和な世界」を開催

2019年12月5日、東キャンパス2号館大アンサンブル室にて、岡野弘幹氏による特別公開講座「ワールドミュージックから見る平和な世界」を開催しました。この講座は、来年度のワールドミュージック・カルチャーコース開設を記念して行われたもので、11月に続き2回目の開催となります。今回は、岡野氏がさまざまな民族楽器にかかわる中で知ることになった、その楽器の背景にある文化や社会問題などについてお話いただきました。前半は、岡野氏がこれまで世界の各地で行った演奏の映像を流しながら解説するという形式で行われました。ネイティブアメリカンのフルート奏者 カルロス・ナカイとの共演、NY911グラウンド・ゼロでの平和式典で演奏、タリバン政権が倒れてからのアフガニスタンでの演奏、世界遺産でもあるネパール ボダナート寺院での演奏など、これまでに参加したイベントでの

演奏の映像を基に、楽器とイベントの背景について解説しました。

岡野氏は、民族楽器にかかわることにより、そこにある文化や社会問題のようなものにかかわらざるを得なくなったと語り、民族楽器で奏でられる音楽は、折りの歌であるといいます。音楽を創る、音楽を演奏することが、自分自身の心の平穏につながっていく、また、そのことが音楽を聴く人にも伝わっていく、そうした意識を誰もが持つようになれば、少しずつだが世の中は変わっていくと感じている。音楽にかかわるならばそんな意識も持ってほしいと、学生らに説明しました。

講義の後半は、民族楽器を使ったライブパフォーマンスです。ネイティブアメリカンフルートの演奏から始まり、次にネパールのシンギングボールが演奏されました。この楽器はスティックで叩くほか、ボールの縁を滑らせるようにこするだけで綺麗な響きが生れます。続いて、モンゴルのゲングンという竹製の口琴。口にくわえ弾いて音を出すシンプルな楽器で、ピョーンという愉快な音を奏でます。そして、ステージで異彩を放っていた壺の登場。アフリカに古くから伝わる楽



器で、ウドゥと呼ばれます。ウドゥはナイジェリア語で陶器の意味で、文字通り、陶器でできた壺です。穴を叩いたときの低音と、側面を叩いたときの硬い高音が心地良い響きです。ここで学生がコンガで参加、ウドゥとコンガのセッションとなり、会場は大いに盛り上がりしました。アメリカで黒人に教わった基本的なリズムの取り方を会場に伝授し、カリンバとシェーカーでさらに会場を盛り上げました。続いて、雅楽器の笙の原形となったケーンという竹製の笛。構造はパイプオルガンと同じで、パイプオルガンの原型といえるものだそうです。続いて、ひょうたんを使った中国のフルスという

笛。3本の管が付いていて、ハーモニーが吹けるようになっているのが特徴です。

最後は、手製の太鼓でネイティブアメリカンの曲を会場の皆で歌いました。自作の太鼓を持参した参加者も加わり、会場全体が叫び声を上げて大いに盛り上がりしました。

講義終了後も、参加した人々が岡野氏に楽器について質問したり、実際に楽器を手にしてみたり、ライブの余韻に浸りながらもいつまでも去りがたい雰囲気でした。

岡野氏は、来年度、若い学生たちとなりが始まっていくか、非常に楽しみにしていると話しました。

デザイン領域

【在学生の活躍!】 第6回「東京装画賞」に入賞

「東京装画賞」とは、「装画の魅力」を競う、一般公募のコンペティションです。装画とは、書物を綴じ、表紙を付け、外形を整えることです。また、書物の意匠、書物の絵を指します。この催しは、一般社団法人 日本図書設計家協会が主催するものです。「図書設計」とは、装丁・装画から印刷・造本までを含むブックデザインのこと、ブックデザインにかかわるク

リエイターのための団体です。

作品応募点数858点(一般628点/学生230点)から、厳選なる審査により選出されました。

◆一次審査通過：一般258点/学生102点

◆二次審査通過：一般106点/学生38点

◆三次審査通過：一般65点/学生25点(入選ライン)

この三次審査通過者から、本学よりデザイン領域 イラストレーションコースに在学している5名の学生が次の賞に選ばれました。



金賞 酒井美和(3年生)



審査員賞-大久保明子賞- 酒井美和(3年生) 協賛企業賞-平和紙業賞- 杉浦芽生(3年生) 入選-平和紙業賞- 篠田司(3年生)

- ◆金賞 酒井美和(3年生)
- ◆審査員賞-大久保明子賞- 酒井美和(3年生)
- ◆協賛企業賞-平和紙業賞- 杉浦芽生(3年生)
- ◆入選-平和紙業賞- 杉浦芽生(3年生) 田中高人(2年生) 酒井美和(3年生) 山下みのり(3年生) 篠田司(3年生)

美術領域

「自転車盗難」 防止啓発ポスター公募 本学学生が受賞

西枇杷島警察署は自転車盗難防止を呼びかける啓発ポスターを広く募集し、応募した本学洋画コース3年 田畑玲さんの作品が優秀作品に、アートクリエイターコース2年 日比野廉さんの作品が入選に選ばれました。本学のある北名古屋市を含む西枇杷島警察署管内では、窃盗の3割近くを自転車盗難が占めているそうです。足代わりに軽い気持ちで持ち去られることが多く、規範意識を呼び戻し犯罪をさせないよう啓発する

ポスターがテーマとされました。田畑さんの作品は、テーマをよく理解して制作されており犯罪防止の効果も高まるのでは、との評価をいただきました。西枇杷島警察署長より感謝状を、また、副賞として全国防犯協会連合会から賞金が手渡されました。

コントラストの強い今回の作品は、写真をベースに普段制作している作品に近いところがあり、今回のテーマにマッチしたのではないかと思います。絵画作品と異なるものの、自分の創った作品が喜ばれるのはとても嬉しいと話していました。

西枇杷島警察署からは、駅の駐輪場に置かれている自転車でも鍵をかけていないものがたくさん見られる。



二重ロックなど盗難防止に努めていただきたいとのことでした。



【優秀作品】洋画コース3年 田畑玲さん
【入選】アートクリエイターコース2年 日比野廉さん

受賞作品は、名鉄徳重・名古屋芸大駅、西春駅でも掲示される予定です。



マスター ↑↓to アーティスト 【第47回】 ＜ 最後は「音」 ＞



小さい頃から人見知りでした
1989年 小学3年電子オルガン発表会
当時は本当に嫌で嫌でしようがなかった…



原田裕貴

音楽領域
サウンドメディア・コンポジションコース 講師
<http://yukiharada.com/>

1980年 愛知県生まれ
2000年 国立豊田高専環境都市工学科卒業
2005年 音楽学部サウンド・メディアコース卒業
2007年 大学院音楽研究科修了

在学中より映画、テレビ、舞台、ゲーム、CM等の音楽制作に携わる。

- CBCテレビ開局60周年記念番組「伊勢神宮・命あふるる神々の森 五十鈴川に行く」
- CBCドラマ「こんなところに運命の人」[金の殿〜バック・トゥ・ザ・NAGOYA〜]

- 映画「ヒノイリの風」[ちゃんこ]
- ジュエリアル名古屋タカシマヤ「Amour du Chocolat!」
- アニメーション「GOLDING 第1章～透明人間の殺戮～」
- Nintendo Wii「アークライズファンタジア」
- 2013年「VISIONES SONORAS」(メキシコ、モレリア市)映像とのコラボレーション作品
- 2015年「Japan-USA: Musical Perspectives Series 6」(ニューヨーク)笙とエレクトロニクスのための作品

プロフィールの豊田高専環境都市工学科卒業が目を引く。音楽、とりわけ演奏に関していえば、幼い頃からの英才教育が重要とされるが、異色の経歴である。「環境都市工学科って、コース名はカッコいいんですけど、土木工学ですね。いわゆる伝統的な音楽教育は受けてないですね」。音楽と土木？ お話を伺うと、関係ないようでいて、やっぱり関係しているような。「じつは高校受験のときに、音楽科に行きたくて見学に行ったんですよ。そこでこれは無理だと…」。

母親の勧めで、幼い頃に電子オルガンを始めた。小学校の6年間は電子オルガンを習ったものの、それほどのめり込むわけでもなく嫌々だったという。

中学生になると、一旦、楽器からは離れる。しかし、不思議なもので、辞めたとたんに何かやりたい気持ちがふつふつと湧いてきたという。「小学生時代に練習した電子オルガンがあったので、この頃から作曲の真似事を始めました。そんな頃、中学校の音

楽の先生がシンセサイザーというものを教えてくれて、これがあれば一人でなんでもできる、と思いました。

そこで、原田少年は一計を案ずる。定期テストで1番になったらシンセサイザーを買ってくれるよう両親と約束。文字通り、死ぬ気で勉強し約束を果たしたというから、努力家というか、呆れるというか、とにかく能力の高い人である。

約束通りシンセサイザーを手に入れると、兄が使っていたパソコンを利用してDTMを始め、趣味の曲作りのにめり込んだ。音楽の道に進みたいと考え、高校も音楽科のあるところへ考えるようになったのだが、見学して早々にあきらめたという。「僕はピアノがダメだったんですよ。電子オルガンとはまったく別物。みんな小さい頃からやっていた、レベルが違う。僕は嫌々やっていたこともあって、楽譜を見るのも苦手だったんです。それであきらめました」。

音楽への道は心の中に封印し、家の近くの豊田高専環境都市工学科へ進むことにし

た。「カリキュラムが大学みたいに自由度があって、就職するならばつぶしも効くし、それで高専へ行くことにしました。でも、入って見たものですねえ…(笑)」。

高専へ入ると、5歳離れた先輩と接したり、それまでの勉強とは異なる理系の世界に触れたり、大いに刺激になった。また、高専は5年のカリキュラムだが、3年で辞め大学へ進学する学生が多いことも入学してみてもわかった。仲の良い友人も3年で辞め、自分がやりたかったことへ向けて大学に入り直していた。



1997年 高専3年一緒に写っている友人は陸上をやるために高専3年で退学して大学へ進みました。音楽の道へ進む決意を新たにすきっかけをくれた親友のひとりです

自身を顧みて、再び、音楽のことが気になった。「高専3年のときに思い直して、音大を受験しようと2年間音楽教室に通いました」。晴れて、サウンド・メディアコース(現



CBCテレビ開局60周年
記念番組
伊勢神宮・命あふるる神々の森
五十鈴川を行く(2016)
[https://enavant.jp/
album/2797/](https://enavant.jp/album/2797/)



CBCテレビ開局60周年記念
スペシャルドラマ
金の殿〜バック・トゥ・ザ・
NAGOYA〜(2017)
[https://enavant.jp/
album/2875/](https://enavant.jp/album/2875/)



■Inexplicable owl
2014年に名古屋芸術大学の教員と卒業生が作曲家グループを立ち上げ、毎年作品演奏会を開いています
<https://inexplicable-owl.amebaownd.com>



■アナヴァンミュージック
放送番組利用に特化した
完全無料の楽曲配信サイト
<https://enavant.jp/>



パソコンのソフトウェア音源は、かなりリアルな表現ができるようになってきたとはいえ、それだけでつくられた音楽には魅力が宿らない気がします



2015年 ニューヨークにて
ニューヨークでの演奏会の
プレイベントの様子。右から
僕、クラリネット&鍵盤奏者の
トーマス・ピアシーさん、
笙奏者の中村華子さん



2002年 大学2年芸大祭
サウンドメディアの同期と出演。音響さん(右)と事前
打ち合わせ中。生演奏+コンピュータの伴奏は、当
時の芸大祭出演者ではありませんでした



2004年 大学4年コンサート
大学の演奏会「ザ・ルネッサンス21」にて、この演奏
会があったおかげで、在学中に4曲もオーケストラ作
品を発表できたことは非常に大きな経験です



2008年 助手の頃 セミナー会場の清泉寮にて
2009年に発売された「アークライズファンタジア
(Wii)」の音楽を制作中で、このような規模の大きい
仕事はじめてだったので、とにかく必死でした



2013年 メキシコにて
メキシコでのコンサート後、右からギタリストの佐藤紀
雄さん、現地スタッフのジョアオさん、僕、田中先生

サウンドメディア・コンポジションコース)の1期生となる。演奏家よりも作曲家志向、ジャンルにとらわれず音楽に触れられることも魅力に感じたという。

在学中から音楽制作の仕事にかかわった。映像に合わせて音楽を制作する仕事にあらためて魅力を感じた。「よくよく思い出してみると、幼い頃に『子猫物語』という映画を見たんです。ムツゴロウ(畑正憲)さんが監督で、坂本龍一さんが音楽を付けていました。それがすごくいいなと思っていた記憶があって、たぶん坂本龍一さんの影響が大きいのかなと思います」。

音楽ビジネスにとって、難しい時代になった。CDの売上は減少、定額や無料で音楽を聴くことができるサービスが増え、音楽でどうやって生活していくか、プレイヤーも制作者も、音楽に携わる誰もが模索している。演奏家はライブに活動の中心を移しつつある。楽器の演奏だけでなく、DJやパソコンを使いその場で音楽を作り出しライブ感を

出す方法もある。

では、作曲家はどうだろうか。「難しいですね。映像系の音楽では、すでにAIが結構なレベルまで来てるんですよ。映像に合った雰囲気曲をコンピューターが作ってしまう時代が来るだろうといわれています。そうしたところで作曲家としてやっていくのは難しいだろうと思います。ただ、音楽に限らずコンピューターを使って制作されたものは、表面的にはいいものの、面白かったり、残ったりするものではないように感じる場合があります。コンピューターを使い、見えない部分を機械に任せて作るんですけど、本当はそこをしっかりとやらないと残るものは作れないのではないかと思います。例えば、やっちはダメといわれていること、ただそれを守るだけでなく、その理由を深く考える。理にかなっているところがたくさんあって、それを知っているか、感じているかじゃないかと思うんです。他人やAIと自分を差別化するとしたら、そんなところかもしれません」。

「違うアプローチをするという考え方、これは高専のときですね。理系の考え方を覚えました」。発想は天から降りてくるものではないし、ものを作ることは感覚的なことではない。常にトライ&エラーを繰り返し、考えて、考えて、作るものだという。「トライ&エラーが簡単にできるようになったのはデジタル化の恩恵です。今は、思いついたことをすべて実験できる時代です。そういう時代だからこそ、やはり音楽以外のことを知っていたり、深い考えを持っていたりすることがとても重要ではないかと思います。やはりリベラルアーツですよ」。音楽を作りたい人は、音楽の勉強だけではなく、音楽以外のことにも興味を持つことや学ぶことが大事だという。

これまで多くの作品が世に出た。しかし、まだ自信作だと胸を張れるものはないという。「最終的には『音』で勝負です。人間の意識とは別の次元、理性よりももっと根源的な部分。そこに伝わる音。音で勝負したいです」。音楽への熱い思いを感じた。

2月
第18回歌曲の夕べ
日 時/2020年2月7日(金) 18:30開演予定
会 場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

研究生修了演奏会
日 時/2020年2月13日(木) 18:00開演予定
会 場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

ミュージカル公演 フェアリーテールズ(予定)
日 時/2020年2月19日(水) 18:00開演予定
会 場/名古屋芸術創造センター
入場料/500円(全自由席) 予定

大学院音楽研究科特別演奏会
日 時/2020年2月20日(木) 18:00開演予定
会 場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席)

ピアノのしらべ 第24回春のコンサート
日 時/2020年2月27日(木) 17:30開演予定
会 場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

3月
第47回卒業演奏会
日 時/2020年3月6日(金) 17:00開演予定
会 場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席 整理券あり)

ジャズポップス卒業演奏会
日 時/2020年3月7日(土) 15:00開演予定
会 場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席)

第22回大学院音楽研究科修了演奏会
日 時/2020年3月10日(火) 18:00開演予定
会 場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席 整理券あり)

オペラ公演 歌劇「フィガロの結婚」
日 時/2020年3月14日(土) 開演時間未定
会 場/西文化小劇場
入場料/入場料未定
日 時/2020年3月15日(日) 開演時間未定
会 場/西文化小劇場
入場料/入場料未定

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

●お問い合わせ先/名古屋芸術大学 演奏課
Tel. 0568-24-5141

チケットお取り扱い場所

- 名古屋芸術大学 演奏課
Tel. 0568-24-5141
- 名古屋音楽学校
Tel. 052-973-3456
- 愛知芸術文化センター
B2Fプレイガイド
Tel. 052-972-0430
- ヤマハミュージック
名古屋支店プレイガイド
Tel. 052-201-5152
- カワイ名古屋
Tel. 052-962-3939
※一部取り扱いのない
公演がございます。

2019年度 オープンキャンパス日程

2020年3月1日(日) 10:00~16:00 ※卒業制作展と同時開催



名古屋芸大グループ校特集

名古屋芸術大学 保育専門学校

皆さんは音楽が好きですか? 好みの差こそあれ、多くの方が「好き」と答えるのではないのでしょうか。名古屋芸術大学保育専門学校の学生にも音楽の最初の授業で同じ質問をしていますが、今年度も全ての学生が「音楽が好き」と答えました。しかしながら、「音楽の授業」、とりわけピアノとなると、苦手意識をもってもらう学生が多くいます。

本校には、入学前にピアノなどの楽器に触れた経験の少ない学生が多く、学生たちは音楽の授業に対して大きな不安を抱えながら入学してきます。初めて取り組むこと、また経験があっても blanks があれば不安に思うのは当然のことでしょう。しかしながら、保育士および幼稚園教諭の養成課程には音楽に関する基礎的な技能の習得が課せられています。卒業するまでの2年(昼間部)ないし3年(夜間部)という短期間で楽譜を読めるようになり、ピアノを弾けるようになること。さらには、子どもの歌に合わせ、指導をしながら演奏できるスキルを身に付けなくてはなりません。本校の音楽の授業は1年生前期より始まり、楽譜の読み方、ピアノの弾き方、そして簡単な伴奏の付け方や発声の仕方について、弾き歌いや合奏活動など保育の現場を想定して学びます。

今回は、音楽の授業について、保育科2年生の竹内優斗さん、松尾有璃菜さん、山口桃菜さんにお話を伺いました。

学生たちは時に挫けそうになり、弱音を吐き

ながらも、友人と励まし合い、音楽の楽しさや表現する喜びを感じています。しかし、子どもたちにとっての音楽活動は、ただ楽しいだけの活動ではありません。近年の研究では、音楽活動は子どもたちの脳に働きかけ、さまざまな能力を引き出すことが明らかになってきています。この先、保育者として子どもたちの音楽活動にかかわる学生たちには、ただ音楽の基礎を身に付けるだけでなく、音楽の良さを子どもたちに伝え、活かせるよう、音楽性を磨き、表現力を高め、さらには子どもたちと共に音楽を楽しみ、共感できる力を付けていってほしいと思います。



2E 山口桃菜さん (写真中)

保育専門学校での生活を通し、名古屋芸術大学の音楽領域に3年次編入をする決意をし、無事合格することができました。小さいころから習っていたピアノを活かし、幼稚園教諭になりたいと思っていましたが、授業を受けていく中で、もっと音楽の知識を付け、教えられるようになりたいと思いました。担任やピアノの担当の先生に相談し、新しい道へ進むことができました。合格するまで支えてくれた先生や両親、友だちに感謝し、大学でも頑張っていきたいです。

2D 竹内優斗さん (写真左)

ピアノは初心者で、入学前は「本当に弾けるようになるのか」と不安でした。授業でピアノの先生に毎日弾くことが大切といわれ、1年生の頃は1日30分~1時間程度、学校や家でも練習していました。レッスンでは、課題曲を演奏し、運指や弾き方(強弱、拍、表現)などの細かい部分を先生に教えていただき、今では、ピアノを弾くことが好きになりました。これからも練習を重ね、演奏できる曲を増やしていきたいです。

2E 松尾有璃菜さん (写真右)

私はもともとピアノが苦手で、やりたくないなと思いながら入学しました。しかし、入学し、授業を受ける中で、少しずつ頑張ろうと思えるようになりました。そんな時、教育実習Ⅱでピアノの課題が7曲出されました。私のレベルではとても難しい曲ばかりで、また入学当時のような気持ちになってしまいました。そんな私に、担当の先生は何度も練習に付き合ってくださいました。結果、その実習ではうまく弾くことができ、そこからとてもピアノが好きになりました。

表紙の写真

デザイン領域テキスト
タイトルデザインコース
・メタル&ジュエリー
デザインコース
デザインプロデュース
[翔龍念珠堂] 数珠袋
メタル&ジュエリー
コース4年 神田真由さん



「名古屋芸大グループ通信」
ウエブサイト



発行: 名古屋芸術大学
企画・編集: 広報企画部
デザイン・協力: くまな工房一社
印刷: 株式会社クックス
発行日: 2020年1月31日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp

